

令和6年度 学校自己評価システムシート （さいたま市立城北小学校）			学校番号	9 6	【様式】
目 指 す 学 校 像		一人ひとりが輝き、学ぶ喜びと笑顔があふれる学校			
重 点 目 標	1 「じょうほくの教育」の推進（丈夫な心と体づくり、個性の伸長、学力の向上）				※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、 方策の評価指標」を設定。
	2 安全で美しい学校づくり（教育相談体制の充実、安全教育、安全管理の徹底）				
	3 地域に開かれた特色ある学校づくり（学校運営協議会等の有効活用）				
	4 教職員の指導力向上と働き方改革の推進（教職員研修の充実とライフワークバランスの改善）				

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					実施日令和7年2月17日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	〈現状〉 ○令和5年度のさいたま市学習状況調査の「算数の勉強は好きですか」の項目では、肯定的な回答が市の平均より 25.8 ポイント下回っている（現6年生）。 ○令和5年度のさいたま市学習状況調査では、国語・算数共に、正答率が市平均より大きく下回っている。 ○日頃の学習の様子では、意欲的に学習に取り組む児童も多いが、集中力を欠いてしまう児童も少なくない。 〈課題〉 ○学習全般に対する興味・関心が高まっておらず、児童が学習をすることの意義を実感できるようにすることや達成感や充実感を味わえるようにすることが課題である。 ○基礎・基本的な学力の確実な定着を図ること。	・1人1台の端末や ICT を活用した授業の工夫・改善と、繰り返し学習の実施 ・学習への興味・関心を高め、達成感や充実感を味わえるような授業の工夫・改善	①1人1台の端末や ICT、デジタル教科書等を活用した授業を毎日実践し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進する。 ②授業において「パワーアップタイム」を毎時間設定し、基本問題を繰り返し学習することで、基礎学力を向上させる。	①学校評価に係る児童・保護者のアンケートにおいて、基礎学力に関するＡＢの総計が昨年度の数値以上となったか。 ②市学習状況調査（算数）の平均正答率が令和5年度の数値以上となったか。	①学校評価の基礎学力に関する項目で、児童が 92%、保護者は 83% が肯定的な回答であり、昨年度を上回った。（昨年の数値は児童 88%、保護者 82%）。 端末活用状況の調査（6年生）で授業において「ほぼ毎日使用している」「週に3回以上使用している」の合計が 100% となり昨年度を上回った。授業における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識して実践することができた。 ②市学習状況調査（算数）の平均正答率は令和5年度比-1.2% となった。 「パワーアップタイム」を各学年とも実践することができ、児童に対する授業内容の理解と基礎学力向上に大きく寄与した。	A
					①学校評価の授業に関する項目「授業はわかりやすくて楽しいですか」で、児童の 87% が肯定的な回答であった（昨年度の数値は 84%）。 学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を常に意識した授業の工夫改善を行った。 ②学校評価の授業に関する項目「子どもたちは授業を楽しんでいると感じていると思いますか」で、教員の 73% が肯定的な回答であった（昨年度の数値は 76%）。 指導者を招聘した算数科の研究授業を3回実施し、研究協議会にてご指導いただいた。	B
2	○令和5年度の学校評価に係る児童・保護者のアンケートにおいて、「喜んで登校しているか」の質問に肯定的な回答をした児童は80%、保護者は87%である。児童・保護者共に肯定的な回答は令和4年度よりやや上回っている。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が原因と考えられる児童のけがは発生しなかったが、児童の不注意によるけがが多く見られる。 〈課題〉 ○学習や友人関係、家庭環境等によるストレスを抱える児童が少なくないため、児童の表情や心の変化を見逃さないよう一人ひとりの状況を把握し、迅速に支援・相談できる体制づくりを進めることが課題である。 ○児童のけがが防止のためにも、危険な箇所について修繕を進め、また、児童にも自ら危険を予測したり、回避したりする力を育む必要がある。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・施設・設備の管理の徹底による安全で安心な教育環境の充実	①スクールダッシュボードや心と生活のアンケート等を活用して児童の状況を把握し、教職員で情報共有をしながら個に応じた指導・支援を行う。 ②Sola る一むを整備し積極的に運用することで、児童の安心・安全な居場所を確保し、学習支援を行う。	①学校評価に係る教員のアンケートにおいて、指導に関する項目の肯定的な回答が90%以上となったか。 ②学校評価に係る児童・保護者のアンケートにおいて、保護者の項目「先生の信頼」についてと児童の項目「先生に相談」について、肯定的な回答が90%以上となったか。	①学校評価の教職員の指導に関する項目で、教員の 91% が肯定的な回答であった。 児童のアンケート結果をもとに個人面談を行ったり、普段の生活においても積極的に声掛けをしたりするなど、一人ひとりに寄り添った指導を行った。 ②学校評価の保護者の「先生の信頼」に関する項目で、保護者の 87% が肯定的な回答であった。また、児童の「先生に相談」に関する項目で、児童の 92% が肯定的な回答であった。 Sola る一む利用について保護者との面談をはじめ、運用を本格的に開始した。担任をはじめ、様々な教職員や級友が積極的にに関わり、声掛けや学習支援を行うことができた。	A
					①学校評価の教育環境整備の項目で、児童が 93%、保護者は 76% が肯定的な回答であった。 毎月の安全点検では、修繕が必要なところを点検簿に集約し、組織的に修繕を行った。今年度は防犯・安全面の観点から、屋外にセンサーライトと防犯カメラを設置した。 ②保健委員会の児童が中心となり、校内けがマップの作成・掲示や学校保健委員会での発表を通して、児童の安全と健康に対する意識を高めることができた。	B
3	〈現状〉 ○昨年度の学校運営協議会にて、目指す児童の姿について協議し、共有した。 ○学校HPや各種便りで積極的に児童の学校生活や活動の様子を発信している。 〈課題〉 ○学校運営協議会での話し合いの内容について、家庭や地域にどのように周知し、具現化していくのか、さらに熟議をする必要がある。 ○学校HPで更新されていないページがあったり、便りが児童から保護者に渡っていなかったりするため、学校生活の様子やお知らせ等を確実に周知する必要がある。	・児童・保護者・地域の参画・協働に基づいた信頼される学校づくりの充実 ・家庭・地域への積極的な情報発信と学校公開	①学校運営協議会を年3回実施する。熟議を重ね、その実現に向けた方策を定め、継続的な取組を進めていく。 ②信頼される学校づくりの実現に向け、教職員に教職員事故や授業実践等に関する研修を実施し、教職員事故の防止や「よい授業」を実践する。	①学校運営協議会において、実現に向けた方策を打ち出し、継続的な取組を進め始めることができたか。 ②研修を通して、教職員事故を起こさないための取組や、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した授業を実践できたか。	①学校運営協議会を3回開催し、内容については「学校運営協議会通信」を発行して家庭・地域に周知・啓発した。第2回は城北中学校と共同で実施し、中学校区で育みたい子ども像について熟議を行った。 ②資料を使用した研修を実施し、教職員事故については具体的な事例を基に随時指導を行っている。教職員事故の発生はゼロである。教員は「よい授業の」実践に向けて、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を常に意識した授業の工夫改善を行った。	B
					①学校評価の「学校からの情報提供」の項目で、保護者の 86% が肯定的な回答であった（昨年の数値は 89%）。 スクリレを導入し各種たよりを電子化したことで、確実な配付ができたとともに、教職員の負担軽減につながった。 ②学校評価の「授業参観・学校行事の公開」の項目で、保護者の 95% が肯定的な回答であった（昨年の数値は 95%）。 学年によっては普段の児童の様子を自由に参観する機会を設けた。	B
4	〈現状〉 ○経験の浅い若手の教員が多く、中堅・ベテラン教員の助言・指導の下、児童の指導に当たっている。 ○働き方改革の推進により、時間外在校時間について改善されてきている。 〈課題〉 ○教員間で授業、生活指導、学級経営等の指導力について差がある。 ○特定の教職員に業務の負担が偏ってしまい、時間外在校時間において教職員間で差がある。	・若手教員の指導力向上と教職員の ICT 活用能力の向上 ・教職員の働き方改革の推進	①教員相互による授業参観、公開授業、師範授業、研究協議、校内研修、教材の共有などを実践し、教員の指導力を向上させる。ICT の活用についてはエバンジェリストが講師となり、校内研修を実施する。 ①校務の整理、行事の見直し、簡略化、精選を運営委員会等で行う。また、分掌の担当主に業務が集中しないよう、各担当が分担して業務を行うようにすることで、負担を減らす。	①学校評価に係る教員のアンケートにおいて、児童の「考える力や学ぶ力の成長」や「思いやりの心の成長」に関するＡＢの総計が昨年度の数値以上となったか。 ①時間外勤務時間の平均を昨年度の時間より短縮できたか。	①学校評価の「児童の考える力や学ぶ力の成長」と「児童の思いやりの心の成長」に関する項目で、それぞれ教職員の 36%、68% が肯定的な回答であった（昨年の数値は、それぞれ 52%、67%）。 ICT 支援員とエバンジェリストの指導の下、オクリンクプラスの活用法について研修を実施した。個別に教職員どうして教え合う姿も見られた。 ①12 月末日現在、時間外勤務が月平均 45 時間を下回った職員は 74.4% である（昨年度は 71.1%）。 教材・教具の共有や行事の精選、会議の効率化等を進めた結果、時間外勤務の時間を削減することができた。	B
					・学年会や教科部会、研修会等を充実させ、効果的な取組について情報を共有し、実践に活かしていく。 ・教職員自身の弱みや強みをしっかりと確認して研修の受講を奨励し、さらに指導力を高めていく。 ・引き続き、教材・教具の共有や行事の精選、会議の効率化等を進めていく。 ・教員によって校務分掌の業務量等に偏りが出ないよう、組織的に取り組んでいく。	A